

本 賞



犯罪被害者支援「小さな家」主宰

大久保 恵美子 さん

1990年長男を飲酒運転による交通犯罪で亡くされました。その後勤務していた富山県の保健所退職され、犯罪被害者自助グループ「小さな家」を主宰されました。

犯罪被害者給付金制度の全国大会で末席から手を挙げられ「なんで被害者に人権がないのか」を問われ、これが全国で被害者支援センターが発足するきっかけとなりました。富山県でも平成18年に「とやま被害者支援センター」が設立され、設立から現在まで理事を務められています。また、現在は電話相談などの支援事例を題材とした「事例検討会」のアドバイザーを務められています。犯罪被害者支援に関わる関係機関・団体の職員を対象とした講師も多く勤められ、犯罪被害者支援意識の普及及び高揚、権利・利益の保護に寄与されておられます。





特別賞

峰 蘭太郎 さん

(俳優・東映剣会 OB)

黒部市生地出身で現在74歳。

1964年、16歳で故・大川橋蔵に弟子入り。

同年TV「忍の者」(主演・品川隆二)にて俳優としてデビュー。

1976年、東映京都撮影所・専属演技者となり“斬られ役”として活躍する傍ら、

【殺陣技術集団】東映剣会の役員・会長を歴任。OBとなった現在でも、後進の指導に尽力しており、現在「東映俳優養成所」講師も務めている。

近年ではその経験を乞われ、映画・テレビドラマを問わず時代劇作品における“所作指導”として撮影現場に参加することも多い。

<近年の主な出演作>

【映画】

「せかいのおきく」(‘23)「破戒」(‘22)「多十郎殉愛記」(‘19)

VIPO/ndjc2016「シニアマン」*主演、(‘16)「太秦ライムライト」(‘14)

【TV】

「名建築で昼食を 大阪編」「科捜研の女 2022」「遺留捜査」

時代劇専門 ch「三屋清左衛門残日録-あの日の声-」

【時代劇所作指導担当作品】

映画「THE LEGEND & BUTTERFLY」 etc

地域社会賞



「チェリストやまざき」代表

山崎修二さん

山崎さんは、朝日町のチューリップ農家として、独自の「景観を生かした農業」を実践しています。チューリップや菜の花、桜並木、北アルプスの峰々が織りなす朝日町舟川べりの景観「春の四重奏」と、色とりどりの稲穂が特徴の古代米を植える「田んぼアート」が代表的な取り組みです。いずれも長きに渡り主導的に関わり、観光や農業の振興に貢献しています。

「春の四重奏」は2009年から始めました。桜の開花時期に合うように、早咲きのチューリップや菜の花を栽培します。町や観光協会の協力も受け、今では県内屈指の写真映える花見スポットになっています。中学校1年生の教科書に紹介されるなど、全国的にも知名度が上がっています。

一方、「田んぼアート」イベントは、舟川べりで15年ほどからJAみな穂青壮年部に呼びかけでスタート。泊高校美術部員とデザインを考え、大勢の親子連れが田植えや収穫に参加するなど地域の結束を強めました。若い世代に農業への関心を持ってほしい思いもありました。昨年はロシアのウクライナ侵攻が勃発、戦禍に心が痛みましたが、平和の訪れを子どもたちの笑顔に託して図案化し、チューリップ品種「ワールドピース」に重ね合わせて、平和へのメッセージを田んぼから発信しました。

(顔写真は北日本新聞社提供)



地域社会賞

新川相撲甚句会

新川相撲甚句会は、平成8年に、富山相撲甚句会（昭和58年設立）の魚津教室（新川支部）として大光寺公民館に於いて開設されました。

2年後の平成10年に「新川相撲甚句会」に改名され、新川地区を中心に多くの会員を募り、練習と技術の向上に努め本格的に活動が始まりました。

相撲甚句は、楽器伴奏は無く、手拍子と「ドスコイ」「ドスコイ」の掛け声だけで唄います。相撲甚句には、枕唄、（前唄、後唄）と本唄、はやし唄があり独特の情緒をかもしだし、しみじみとした哀愁と、ちょっとしたユーモアがあり聞いている方々に感銘を与えます。又、作詞する楽しみ、聴く楽しみ、唄う楽しみがあります。

新川相撲甚句会は、奉仕活動を主体に、各種福祉施設・老人施設へのボランティア慰問公演会や、祝賀会・記念式典など、県内外からの要請もあり22年間活動を続けておられます。

相撲甚句会の発足時は、年4～5回の出演でしたが、今では相撲人気もあり年間30～50回以上の要請があり、各方面から感謝の声が寄せられており、今後の活躍に大変期待されております。

よって、新川相撲甚句会の伝統を大切に活動する熱意と行動力に敬意を表したいものです。



新川経済倶楽部授賞式記念甚句

作詞 白井小五郎

輝け新川経済倶楽部
授賞式記念の集いヨー

ハアア

昭和五十四年十二月

新川地区に根差したる

若手経営者同士が集まって、

心一つに、

地の利、歴史を、解り合い

新川地域の活性化

住民のニーズを洞察し、

経済、文化に教育や

スポーツ等を提唱し、

経営者自身の、資質の向上を

目指して新川経済倶楽部が誕生し

【活動堅実】実を結び

昭和五十八年に

【新川地域発展賞】を制定し

艱難辛苦を乗り越えて

あらゆる分野で貢献し

地域社会の発展と

話題性をもたらした

多くの個人や団体の

その功績を称賛し

今日ほめたい授賞式

新川経済倶楽部の皆さんや

表彰受けし皆様を

陰より支えし、方々に

感謝の心を忘れずに

新川地域の輪をつなぎや

やがて実もなる花も咲く

個人の教えにある通り

笑う門には福来る

今宵一夜は樂の酒

酔うて唄いて飲みほして

本日おいでの皆様と

挙げてお祝いヨーホホイ

ハアア 申しますよー

ハアア ドスコイ、ドスコイ



奨励賞

WBO・プロボクサー

能 嶋 宏 弥 さん

2022年12月、愛知県刈谷市で行われた世界ボクシング機構（WBO）アジア・パシフィック・ミドル級タイトルマッチ10回戦で王者の能嶋さん＝黒部市出身＝は、同級10位の可兒（かに）栄樹さんを3－0の判定で下し、初防衛を果たしました。通算成績12戦11勝（5KO）1敗。WBOは世界ボクシング協会（WBA）、同評議会（WBC）、国際ボクシング連盟（IBF）と並ぶ世界4団体の一つ。

これに先立ち、能嶋さんは同年7月、大阪府堺市で行われた同タイトルマッチ10回戦に初挑戦し、王者の野中悠樹さんを6回TKOで破ってタイトル奪取しました。本来、ウエルター級の能嶋さんにとって、2階級上のミドル級の試合や初めての最長10ラウンドでの戦いは異例でした。

現在27歳の能嶋さんは富山商業高校時代、野球部に所属。中京大入学を機にボクシングを始め、元世界王者の薬師寺保栄さんが会長を務める薬師寺ジムに入門しました。同大スポーツ科学部で研究補助員として働きながらトレーニングに励む日々です。

アジア・パシフィック・ミドル級王座防衛後、主戦場とする階級を自分の体重に合ったウエルター級と決め、王座を返上しました。「世界チャンピオンを目指すため」と意気込んでいます。

（写真は北日本新聞社提供）



奨励賞



華王寺副住職

坂本真也さん

坂本真也さんは、分野の違う3つの活動に取り組む、いわば「三刀流」のお坊さん。魚津市の真言宗の寺で副住職を務められ、実家である寺の敷地内で運営する保育園で職員としても働いています。

また、坂本さんはバスケットボールを使ってさまざまな技を繰り出す「フリースタイルバスケットボール」の県内唯一のパフォーマー。プロバスケットボールB1 富山グラウジーズの試合会場でも技を披露しました。高校生のころから独学で練習を重ねてきたフリースタイルバスケット。今では、県内各地からイベントなどに呼ばれることもあります。

お寺の活動としては、様々な悩みを抱える方の人生相談に乗ったり、法話や企業の研修講師をしたりしています。

保育園では、頭の良い子よりも心の良い子に育てて欲しいという思いで子どもたちと関わったり、先生たちが働きやすい環境を作っています。

寺・保育園・パフォーマンス。三刀流の僧侶だからこそ、子どもたちや観客など、より多くの人たちと関わる中で、「悩み、苦しみを抱える人の助けになりたい」「関わる人に何か少しでも良い影響の事ができたら」という思いで日々活動されています。



青少年育成賞



入善町空手道錬成会

佐田 茂 さん

入善町空手道錬成会（善空会）は地域の子供達、主に小学生～中学生・高校生へ空手道を教える会員数65名の団体です。

代表の佐田茂師範は長年、子供達の健全な心身の成長を目指し、ボランティアで空手道を教え、本年50年を迎えられました。

佐田さんは、空手道上達に不可欠な条件は体力と気力と考え、子供達が取り組みやすいよう遊びの要素を取り入れるなどの工夫をし、楽しく時には厳しさを持って体力向上を目指しています。

子供達が今、必要となる体力・気力づくりを大切にしながら、社会人として羽ばたく時に基本となる礼儀、相手を思いやる心などについて空手道を通して教えておられます。

今まで入門した子供達は1000人を超え、親子でお世話になった方も多数います。

子供達は善空会を卒業した後も佐田さんに会う事があると「師範」と呼びかけます。その様な時も佐田さんは子供達へ苗字ではなく名前呼びかけ、嬉しそうに話しています。

このように子供達のことを大切に思い、楽しく、時には厳しく、時には寄り添い育てている姿は新川地域に住む者の手本としたいです。



新人賞



「川っぺりムコリッタ」子役

北村光授さん

松島羽那さん

富山でオールロケが行われた、荻上直子監督最新作『川っぺりムコリッタ』（9月16日公開）で新川地区から2人の子役が選ばれ好演しました。

一人は主人公が住む“ハイツムコリッタ”の住人、溝口（吉岡秀隆）の息子・洋一役を演じた北村光授君と、“ハイツムコリッタ”の大家、南（満島ひかり）の娘・カヨ子役を演じた松島羽那さん。

この作品は「ひっそりと暮らしたい」と無一文のような状態で、川べりの古いアパート“ハイツムコリッタ”に引っ越してきた孤独な男、山田が（松山ケンイチ）が、様々な事情を抱えた住人たちと出会いささやかな幸せを見つけていく様子を描いたものです。

荻上監督は、「富山で撮影することを決めた時に、富山の子でオーディションをしたいと思った。そんななかでも、この丸坊主がすごく印象に残って。目力もある」と北村君の印象を吐露。さらに「羽那ちゃんは、存在から明るさを出していて、こんなに小さいのにオーラがあった」と説明し、「映画の空気にも作用している」と本作に特別な力を与えた二人に感謝しておられました。

今後も、二人には多彩な経験をされ大いに活躍が期待されるところです。

